

## 平成30年度授業評価表

日時	平成30年 月 日 ( ) 校時	記入者氏名	
学部・学年	知的障害部門 学部 年 組	授業者氏名	T1 : T2 :
教科・単元			

※評価欄に○を記入し、気付きを書いてください。

(4 : よくできている 3 : できている 2 : あまりできていない 1 : できていない)

項目	評価観点	評価	気付き (自分ならこうする等)	
実態把握	1 個々の障害の状態及び発達段階や特性等を的確に把握している。	4 3 2 1 +   +   +   +		
	2 個々の経験や単元(題材)に関する興味・関心を的確に把握している。	4 3 2 1 +   +   +   +		
目標設定	3 個々の実態を踏まえた具体的な目標を設定している。	4 3 2 1 +   +   +   +		
学習(活動)過程	授業前 4 教室環境を適切にしている。(固定化, 機能化, 刺激調整)	4 3 2 1 +   +   +   +		
	導入	5 学習内容理解のための, 教材教具の提示の仕方や学習の必然性(意味付け・価値付け)の工夫をしている。	4 3 2 1 +   +   +   +	
		6 学習目標や学習の流れを提示し, 見通しをもたせイメージさせる工夫や板書の工夫をしている。	4 3 2 1 +   +   +   +	
		7 導入時間を短くし(10分以内), 簡潔・明確に伝え, 注目・集中を高める工夫をしている。	4 3 2 1 +   +   +   +	
		8 取り組もうとしていることを肯定的に評価している。	4 3 2 1 +   +   +   +	
	展開	9 体験的な活動(実態に応じた適切な教材教具の操作, ペアやグループ活動等)を通し, 理解を深める工夫をしている。	4 3 2 1 +   +   +   +	
		10 「待つ」時間を減らし, 「動いて参加する」機会を増やす工夫をしている。	4 3 2 1 +   +   +   +	
		11 人とのやり取りの機会や, 表現・コミュニケーション・役割の機会をつくる工夫をしている。	4 3 2 1 +   +   +   +	
12 メイン・サブティーチャーの役割を明確にし, 児童生徒の動きを引き出す適時適切な支援の工夫をしている。		4 3 2 1 +   +   +   +		
13 取り組んでいる過程をよく見て, 適時適切に評価している。		4 3 2 1 +   +   +   +		
評価	14 自己評価・他者評価・相互評価等により, できたことや課題を認識させる工夫をしている。	4 3 2 1 +   +   +   +		
	15 個々の課題や目標に対して評価方法が明確になっている。	4 3 2 1 +   +   +   +		
全体	16 既存の経験や知識・学習内容が活用できるような場面設定をしている。	4 3 2 1 +   +   +   +		
	17 実態に応じた適切なICT機器を活用している。	4 3 2 1 +   +   +   +		

全体をとおしての感想, 意見